

東海大学理学部

数学科同窓会会報

第10号

【巻頭言】

数学科に知己を得て

1981年度 理学部数学科卒業 片桐知己治

78年に東海大学理学部数学科に入学して、92年に東海大学付属第一高等学校の教員として採用され、96年に現在の東海大学付属高輪台高等学校に異動してきました。大学を卒業してから33年が過ぎましたが、幸運なことに東海大学の付属高校で働かせていただいているおかげで、毎年11月1日の建学記念式典や、夏休みに行われる学園オリンピックなどで湘南校舎を訪れることができます。昨年12月6日に霞ヶ関の東海大学校友会館で挙行された理学部創立50周年記念式典では、氏家勝巳先生、田中實先生など、お世話になった先生方とお話しをすることができました。また、付属高輪台高校が文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けているために、数学科の山本義郎先生を始めたくさんの先生方にお世話になっています。

この理学部50周年記念式典では、記念誌が配られました。これを読むと、数学科は理学部が新設された64年に同時に開設されました。78年に入学した私は15期生という事になります。東海大学理学部数学科同窓会が25周年を迎え、会報も10号を数えることとなったのを知り、山田正和会長をはじめ、関係者の皆様のご苦勞には、深く感謝申し上げます。

また、付属翔洋高校の遠藤理文先生、付属第三高校の浜和男先生、付属甲府高校の佐藤昌宏先生など大学時代に一緒に学び、建学祭で一緒に頑張った先輩・同級・後輩の先生方と現在もお付き合いさせていただいているのも、付属高校の教員をしているおかげだと感謝しています。

さらに、私事にはなりますが、78年、79年に入学した数学科の仲間達10名ほどで、毎年1月と8月に、新宿と上野で集まり、一献酌み交わしながら、現況を語り合う楽しい会を、卒業以来33年間にかけて続けています。毎年集まって色々な話をしますが、お酒が入って酔ってくると、必ず大学時代に数学科の仲間達で建学祭で行った「モツ焼き屋」や「歌声広場」の思い出話が出てきます。部活動でもないのに、数学科では先輩と後輩の繋がりが強く、建学祭で一緒に活動したり、理学部杯のソフトボール大会に出場したりと、楽しい学生時代を過ごさせていただきました。

色々な思い出が詰まった湘南キャンパス。例年11月1日から3日まで実施される建学祭にぜひみなさんにおいていただき、数学科のテント・ブースに顔を出していただきたいと思います。新しい出会い・絆が生まれることでしょう。

片桐知己治（かたぎり ともみち）
東海大学理学部数学科 1981年度卒
東海大学付属高輪台高等学校 校長

【大学・就職・定年後】

1970年度 数学科基礎数学専攻卒業 斉藤一也

原稿の依頼を受け定年後、文章を書くこともなく生活を送ってきて、さて、どうしようかが正直な思いで、走馬灯のごとく頭によぎるのは学生時代の4年間の思い出、良きにしろ悪きにしろ大学4年間は、その後の人生に大きな影響があったことは間違いないと思います。

高校を卒業後淡路島を出て神奈川県秦野市に初めての下宿生活不安もありましたが下宿での良き先輩、下宿の皆さんに迎え入れられ楽しい学生生活のスタートが切れました。

大学では数研に入学し最高の仲間と知り合い、多くの人に助けられながら4年間を無事に過ごし卒業しました。大学に入り初めて食べた物は餃子、ラーメン、納豆、インスタントラーメンでした。納豆は好きになれませんでした。インスタントラーメンは下宿での必需品、ラーメン+ライスが学食でのヒルの定番でした。下宿の先輩にラーメン+ライスは贅沢と言われ、その方は学食にお茶づけのりを持ち込み節約していました。（先輩は医者の子息）

遊びでの定番は麻雀で社会人になってもよくやっていました。3年生の時、下宿を大学から歩いて10分のお寺に移り、お寺が麻雀部屋になり、暇を作っては入りびたりで麻雀をしていたのが懐かしい思い出です。バイトも色々やりました。びっくりするのが家庭教師、八百屋、牛乳配達、井戸掘り、古墳発掘調査、淡路島の池の数と大きさの調査等人生経験になったと思います。

肝心の勉強は、私の結婚式に同輩が来てくれて“彼が卒業できたのは僕たちのおかげです”の発言でわかります。何日かしてから親が嘆いていたのを思い出します。

こんな私ですが就職は良い会社に入れました。採用人数300人で私を含む5人は研究室配属。2人は北大、1人は鹿児島大、1人は同志社の中に私がいきました????????

先輩が10人いて総勢15名でやる仕事は社内作業のコンピューター化でした。

新人5人にはコンピューターを使って何でもいから遊んでみる、と寛大な会社で入力タイプライター、出力ラインプリンターでボーリングのシミュレーションゲームを作ったり、基盤配線システム（10個のICの自動7配線99%、1%は手動）、XYプロッターを使った自動作図

(簡単な図面は1時間(手書きは半日))等約2年間社内作業時間の短縮を課題に自由奔放に仕事をさせていただきました。(四則演算による数式は私にとって仕事上の武器でした。)

3年目以降はソフト開発、システムエンジニア、データ分析等を60歳まで勤め、社内外の大勢の人に支えられ無事に勤め上げ定年退職をしました。

定年後は自由奔放にと定年前には考えていたのですが54歳で妻を亡くし定年後母親が病気で入院、淡路島の実家に帰り母親の見守りをしながら趣味の旅行、買い物、海釣り(明石へ月2-3回)、家庭菜園(イチゴ400株、にんにく200株、玉ねぎ2000株、季節の葉野菜等)、ミカン果樹園(はっさく5本、ナルトオレンジ10本)、花作り(バラと一年草)を毎日忙しくやっております。一番大変なのがみかん山、畑等の草刈りです。61歳の時8歳年下の彼女が現れ旅行、買い物等パートナーとして成春(せいしゅん)を楽しんでおります。

私の健康法は愛ある人生、1日12,000歩のウォーキングです。家でぶらぶら、スーパーに買い物程度ですと多くて6,000歩です。毎日は無理として週に4日程度の無理のない程度で、暑い時はやめています。皆さんも日ごろから少しずつ運動はしましょうね。定年後のために!

【川尻先生の思い出】

1973年度 数学科基礎数学専攻卒業 三崎逸男

川尻先生が亡くなって、どうして解析に力を入れてやらなかったのか悔やまれます。一つには高等学校で微積分やったのが嫌いで、それが災いをして微分積分が嫌いになったのだと思います。そして分かっているようで分からない

無限を扱う難しさがあると思います。そして dx 、 dy と $\frac{dy}{dx}$

を離して使うことに心理的抵抗がありました。素直に聞きに行けば良かったのですが、兎に角 $dx = \dots$ 、とあるともうダメだ、読めない本だと思いました。それでも一変数の微積分の基本定理は分かったのですが、多変数になると今も分かりません。位相幾何も本部先生に習いましたが分かりませんでした。分かったのは出席すれば誰でも分かったでしょうが、念仏の如く講義をする渡辺先生の位相空間論で同じようなことを繰り返し、話し嫌いでも分からずにはいられないことでした。

代数はウェルデンの本かポントリャーギンの本を読んだらと、書いてあったのでウェルデンの本を読みました。ガロワの基本定理くらい、だったと思います。ゼミの今井先生にウェルデンを読んでいると二度言うとも二回とも英訳があると言いました。今井先生はユーモアのある人で、私が背が低くやせているので「三崎君なんか牛肉食べる人ですか」と言われました。確かダイエーがありますから、と答えたと思います。いいユーモアが浮かびませんでした。

川尻先生にゼミでやりたいことをホモロジー代数と書いたのですが、今井先生が服部昭の代数の本を使用していることを知っており、服部昭と中山正共著の「ホモロジー代数学」の有名な本があり、そのせいで今井先生に回されたのだと思います。H. Cartan と S. Eilenberg のホモロジー代数の本を持っていて楽しみにしていたのですが、足立という人の大学院の講義でホモロジー的方法で類体論をやると言ったら、今井先生が布川先生にぼくはちょっと・・・として授業されませんでした。今井先生はホモロジー代数を知らないことが判明しました。ゼミでは代数函数論で読めるのですがイメージがわからず、代数曲線(知らない)の代数部分か?日本語で岩沢健吉の代数部分と同じようなものをやったのですが、今となっては何をやったのかさっぱり分からず読む気にもなりません。 dx 、 dy をばらばらに考えることは高瀬正仁の「 dx と dy の解析学」を読めば納得するかと思いましたが、何せ解析のことまだ読んでいません。兎に角、高校の時から置換積分が分からず後にラングの本の説明でやっと納得した経緯があり、自分は疑問が湧きそれが執拗にまとわりつくと思えました。何かパソコンを習いに行っても本当にビリ、税金の講習を聞いても分からない、何か頭の悪い人間が数学科に入って好きなことしかしないと私になるのではないかと思いました。それにしても川尻先生の授業を真面目に聞けば良かったとつくづく思います。

【学生時代を振り返り】

1974年度 数学科基礎数学専攻卒業 中畑登

私は1975年東海大学理学部数学科(基礎数学専攻)を卒業しました。静岡にある東海大学短期大学部に27年間勤め、現在は高輪校舎に勤務しています。

今年2月に数学科同窓会創立25周年記念祝賀会に参加させていただき、大学(大学院)当時にお世話になった氏家勝巳先生、根本精司先生、杉田公生先生とお会いすることができ大変嬉しく、また当時のことを懐かしく思いました。私は4年時、布川正巳先生(故人)のゼミでガロア理論や連続群について勉強しましたが、曖昧な説明や証明をすると先生はたちまちそれを見抜き、厳しい言葉が飛んできたものです。逆にうまく説明できたときは、「それでよいのです」というような満足(?)な表情をされ、それが一つの自信になりゼミを続けることができたと言えます。このゼミを通して数学の他にもその後教師として教壇に立つうえで多くのことを学びました。

連続群についてはポントリャーギンの連続群論という本を読みました。この本を薦めて下さったのは北田奨先生(故人)です。数学科で開かれたあるコンパで先生が数学の話をしているときに、「ポントリャーギンの連続群論という本は非常に良い本だから是非読んでみなさい」と言われ、さっそく上・下巻を購入して少しずつ読み始めました。そして4年のゼミでそれを読み、大学院のゼミでは布川先

生とリー群や幾何の専門でいらした杉田先生の下で再びポントリャーギンの連続群論の続きをやることになり、2年ぐらいかけて読み終えることができました。このとき杉田先生は、「昔はこれで飯が食えたけれど、これからはだめだ」と、もっと先を勉強しなさいという意味のことを言われました。先生とは大変ご無沙汰してしまい、今年の祝賀会で二十数年ぶりにお会いすることができました。先生の淡々としたご様子は当時と変わっていませんでした。

振り返ってみると大学入学から現在まで様々な人から多くのことを教えていただき、今の自分があると感謝しています。末筆ながら同窓会の皆様のご健勝と今後のご活躍をお祈りして、挨拶と代えさせていただきます。ありがとうございました。

【活躍する卒業生】

1984年度 理学部数学科卒業 吉田守
理学部数学科同窓会会報 10号発行、おめでとうございます。

私のような者に、このような貴重なご縁をいただいたことに、驚きや若干の戸惑いもございましたが、自身の半生を懐古する良き機会となり、大変な感謝を致しております。

私は、1981年東海大学理学部数学科に付属推薦で入学しました。実は、その選択は、体育学部と迷い抜いての決断でした。両学部は、一般的に比較対象にあるような学部ではありませんが、幼少期から野球一筋で、高校時代も野球に青春を捧げていた私にとっては体育学部も非常に魅力的であったのです。しかし、野球を愛するのと同じくらい数学の楽しさにも惹かれていた当時の私は、周囲の反対を一蹴し、理学部数学科に入学を決めたのであります。

現在、私は山王総合株式会社という会社で取締役をしています。弊社は、東海大学関連企業のグループに所属する、建物の総合管理や建設関係、及び人材派遣をしている会社です。

縁あってこの会社に入った私も、烏兔匆匆の感が深く、気がつけば27年もの歳月が経ちました。恥ずかしながら、学生時代に勉強した内容は、そのほとんどが忘却の彼方になってしまいました。しかし、その時の教えが身体のどこかに財産として残っており、今日の私の大きな糧になっていることを信じて疑わないでいます。

素晴らしいことに東海大学は、スポーツ面において、数多くの卒業生が活躍しています。だが、スポーツだけでなく、各分野での卒業生の活躍が、母校の更なる発展のためには必要でしょう。ようやく、弊社も少しずつではありますが、卒業生の受け入れが出来るようになりました。私自身まだまだ若輩者ではありますが、こうして僅かながらでも、母校の恩を還元できたなら嬉しいことだと感じています。

末筆ですが、東海大学理学部数学科の益々の隆昌をお祈り申し上げます。

【大学時代の思い出】

1994年度 理学部数学科卒業 荒川英樹

僕が大学に入学したのはもう20年以上前のことになります。2浪もしてやっと入学できた大学でした。入学後は、「スポーツ」そして「友達作り」、その2点に絞って大学生活を送ることにしました。入学後、すぐにボクシングジムに通い、ジムから帰ったあとは友達をアパートに招き、飲み明かす生活。大学に入ってすぐにできた友達は酒好きばかりで僕のアパートは居酒屋のように活用されました。「スポーツ」・「友達作り」、はじめの1年目は完璧でした。

2回生になった最初のころだと思います。友達と新宿に飲みに行き、その後立ち寄ったゲームセンターのパンチングゲームで右小指を骨折。そしてボクシング挫折。目標が一つに減り、尚且つ、いつの間にか「友達作り」がただの「飲み会」に変わっていました。そのころから不登校が始まりました。朝は部屋の掃除、昼からはテレビを見て過ごしていました。TV-CMが好きで莫大な数のTV-CMを覚えしました。2回生、3回生と大学もろくに行かず過ごしていたのでさすがに「なんかせねば！」と思い始めました。「よし、卒業までに金を貯めてアメリカに釣りをしに行こう！」と心に決めました。それから大学も行かず土木作業ばかりしていました。春のことだったと思います。留年の通知が……。土木作業で稼いだお金を授業料に充てました。アメリカ断念。釣りも止め、やっとそこから勉強しようかという感じになりました。2回目の3回生。永瀬先生のゼミ室の門を叩き先生にお願いをしてゼミを受けさせてもらうことにしました。(本来、ゼミは4回生から)本当に恥ずかしかった記憶があります。

【永瀬先生へ：快く受け入れていただきありがとうございます！】

相変わらず不登校は治らず永瀬先生の授業も出席したことがありません。しかし、ゼミは全出席。本当に楽しくやりがいがありました。そんなある日のこと、永瀬先生から「僕、来年アメリカに行くんだけど……。来る？」みたいな話をいただきました。プラス「ただし、もう一つの田中先生の幾何学を落としたら行けないよ！」と。「田中先生の幾何学を落とさへんかったら夢の釣りが行ける！」と思いました。

(補足：その後、田中先生の幾何学のテストは100点。ちなみにその前の前期テストは0点でした。)

省略

半年のアメリカの留学生活が終わり、その後、僕はフロリダの池で釣りをしていました。大きなブラックバスが釣れ現地の新聞に載りました。

省略

最後に。学生のころ、本当に大学に行かなかったですが、卒業してからの同窓会などは、同級生の間では一番出席していると自負しております。今後は大学時代の足りなかった出席日数を取り返していこうと思っております。また、

永瀬先生をはじめ、志摩先生、山本先生、都地先生、その他大学関係者の方々、及び代返してくれた友人達に感謝するとともに恩返しができたらと思っています。ありがとうございました。

(補足: 大学を卒業して就職した先は TV-CM 制作会社でした。)

【数学と野球】

2014 年度 理学部数学科卒業 原綾菜

私が東海大学に入学を決めた理由は、大きく 2 つあった。1 つ目は強い野球部だった。女である私は選手として野球をすることができなかったが、野球が好きという気持ちから高校時代に野球部のマネージャーをしており、大学に入ってもその活動を続けたいと思っていた。そして大学では、「日本一」になりたいと思っていた。東海大学の硬式野球部は、読売巨人軍監督、原辰徳さんの出身校であり、数多くのプロ野球選手を輩出している。野球部の施設を見学させて頂き、高校時代に叶えることができなかった「日本一」の目標が叶えることができるのではないかと考えた。

2 つ目は数学の教員になるため、数学の専門性を極められる数学科で学びたかったことだ。私は将来、数学の高校教師になりたいと考えていた。情報系の学部に入って、情報と数学の教員免許を取ることや、教育学部のある大学も選択肢としてはあった。しかし、私は数学を深くまで学び、専門的知識を十分に持った教員になりたいと考えていた。それらの願いを叶えられるのは、東海大学だと考え入学を決めた。

入学してからは、学業と部活動の両立を目指す日々だった。大学での 4 時間の授業が終わったあと、夜までの練習が毎日あり、公式戦で授業を休まざるを得ない日も多くあった。時間が経つにつれ、野球部の活動に日々の時間を費やし、勉強が疎かになりがちであった。そんな私にいつも助言をくれ優しく見守り、また時に厳しく叱ってくださったのは、数学科の先生方だった。私が持っている、野球部での日本一になることと、教員になることの両方の夢を、同じように大切にしており、どちらも真剣に目指していることを数学科の先生方は理解してくださっていた。勉強が疎かになっていけば厳しく叱ってくださり、部活に迷いが出れば背中を押してくださりと、大学生でありながらもいつも支えて頂いていた。

その中で、私が大学 4 年生のとき、硬式野球部は全国制覇を 13 年ぶりに成し遂げた。その全国大会中、私は教育実習で野球部の現場を離れていた。4 年間、野球部のマネージャーとして活動してきたが、夢見ていた日本一の瞬間、野球部を支えることはできなかった。教育実習を行っていても野球部の試合結果が気になったりもした。野球部の全国大会も、教育実習も、私にとってはどちらも同じくらい大切なものだった。教育実習で学んだことも、野球部で 4 年間学んだことも、私を人間として成長させてくれた大き

な経験だったと思う。

私は 2015 年 3 月に東海大学を卒業し、今は教員になる夢を叶え、神奈川県内の私立高等学校で専任数学科教員として働いている。そして高校 1 年生の担任、校務分掌など様々な経験をさせていただいており、忙しい日々を送りながらも生徒たちの笑顔に毎日元気付けられながら、楽しく充実した毎日を過ごしている。また、高校・大学時代の野球部マネージャー経験を評価していただき、働いている高校では、軟式野球部の責任教師を任されている。今の自分があるのは、東海大学に進学したことに始まり、私を支えてくれた数学科の先生や友人、そして野球部での活動があったからだ強く感じている。

大学生活を振り返ると、両立を目指しながらも互いを互いで言い訳し、努力を怠っていた部分があるな、と後悔している。もっと時間を有効活用して、勉強に取り組めたのではないか、将来の夢を言い訳に、部活の手を抜いていたのではないか、思い返すとどちらも中途半端になってしまったように感じてならない。4 年間、大学で学んで、数学科の勉強と野球部の活動を両立できたかと聞かれると、胸を張って「はい」と言えるものではない。それでも、どちらの夢も達成したいと欲張ったのは、どちらも自分にとって大切な夢であり、譲ることはできなかったのは私自身だった。時期が悪く、全国大会と教育実習の日程が重なってしまったが、大学入学当時に描いていた、教員になることと、野球部で日本一になるという 2 つの夢は叶えることができた。大学生活は充実したものだだったかと聞かれれば、胸を張って「はい」と答えられる。

教員になった私には、まだまだ叶えたい夢がたくさんある。教員になることは、私にとってスタートラインに立っただけに過ぎない。大学生活で学んだ多くのことを活かし、生徒から信頼される教員を目指して、成長していきたいと思う。

【同窓会の活動状況】

2014 年度は数学科同窓会設立 25 周年で 2015 年 2 月に霞が関の校友会館に於いて記念祝賀会が開催され卒業生や石原良美理学部長にもご参加を頂き、多くの先生方が出席され盛大に行われました。

2014 年度は 3 月 25 日の学位授与式で同窓会賞は関本裕基さん、福重昇子さんの 2 名に授与されました。

例年、11 月 3 日の大学の同窓会ホームカミングデーに合わせて数学科同窓会も総会を 18 号館理学部棟の 8 階で開催しています。先輩、後輩が集い、話に花を咲かせています。家族ずれでの参加もありで楽しく過ごしています。お気軽に参加してください。お待ちしております。会報の送付を行っていますが、周りで届いていない人がいましたら事務局までご連絡ください。お送りいたします。

OB, OG として学生支援に役立てるよう協力して行こうではありませんか。

同窓会として協力できることは実施していきたいと思
いますので、お力添えのほどよろしくお願いいいたします。



氏家勝巳先生(数学科同窓会創立25周年祝賀会において)



数学科同窓会の会員数は
2015年4月現在：4204名です。

【事務局便り】

数学科同窓会の会報は卒業生や先生方からのメッセ
ージや大学の現況、さらに懐かしい先生からの思い出など、
同窓生にとって有意義な情報発信ができればと思ってい
ます。800文字+写真など原稿をお届けください。次号に
掲載させていただきます。また、興味のある企画などあり
ましたら積極的にお寄せください。

卒業生の寄稿も歓迎です。また、一言メッセージを随時
募集しています。また広告の掲載も募集しています。掲載
を希望される人は下記の連絡先にお問い合わせください。
数学科同窓会に関するお問い合わせも、下記の連絡先まで
お寄せください。E-mailでお待ちしています。

連絡先

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1
東海大学理学部数学科同窓会事務局
事務局長：原田三行（70年度卒）
e-mail：zharada@star.tokai-u.jp

同窓会の運営経費は会員皆様の会費によって維持され
ております。一口2000円（何口でも可）を次の郵便口座
まで振り込んでいただきますよう皆様のご協力をお願い
いたします。なお、納入者については会報に掲載しご報告
とさせていただきます。

口座番号：10200-25747091
口座名：東海大学数学科同窓会

【同窓会費納入者名簿】敬称略

【2014年度】

阿藤美冬，阿部真大，新井遼太，泉優衣，伊丹直喜，
岩崎真美，遠藤啓太，大瀬智史，大野貴弘，荻津秀昭，
小薄慶宏，加藤翔，桐山碧維，神谷洋典，小林智行，
斉藤章仁，櫻庭匠，高橋健太，瀧澤正，千頭和拓馬，
長島雄太郎，長谷川裕斗，原綾菜，針谷宏，増田健太郎，
本木翔太，山田恵梨，渡邊恵多，渡部瑞貴，我彦桂祐

【2015年】

菅原敏彦，山崎則夫，小山宗彦

ありがとうございました。

【2014年度理学部数学科教員名簿】

湘南校舎	主任	教授	マダ ヨウイ	前田陽一
湘南校舎		教授	イトウ タツオ	伊藤達夫
熊本校舎		教授	イマダ ツネサ	今田恒久
清水校舎		教授	ウラベ マサツク	占部正承
湘南校舎		教授	キキ シン	桐木紳

高輪校舎	教授	サイ トシヲ	酒井利訓
札幌校舎	教授	サバウ バシレ ソリン	サバウ バシレ ソリン
湘南校舎	教授	シマ アキコ	志摩亜希子
札幌校舎	教授	チン ウンゴウ	陳蘊剛
高輪校舎	教授	カハタ ノボル	中畑登
清水校舎	教授	カムラ アキヒロ	中村昭宏
湘南校舎	教授	フルヤ ヤスオ	古谷康雄
清水校舎	教授	ホリノ キヨシ	細野潔
湘南校舎	教授	ヤマモト ヨシロウ	山本義郎
湘南校舎	教授	アカツ トヨヒロ	赤松豊博
湘南校舎	教授	トイ マコト	土井誠
清水校舎	准教授	マツダ カツミ	松田克己
高輪校舎	准教授	キタ ケンシ	貴田研司
湘南校舎	准教授	サキ アツム	笹木集夢
湘南校舎	准教授	ツキカ トオル	月岡透
湘南校舎	講師	ツジ タカエ	都地崇恵
湘南校舎	講師	ナガイ ヒデアトモ	長井秀友
湘南校舎	講師	ナカヤマ ヒロマサ	中山洋将
湘南校舎	講師	タキ シンゴ	瀧真語
湘南校舎	講師	カマリ ノボル	小川竜

以上



2014年11月3日の同窓会にて



【発行】

発行日 2015年11月3日
 編集 東海大学理学部数学科同窓会会報編集委員会
 発行人 山田正和
 発行所 東海大学理学部数学科同窓会
 〒259-1292
 神奈川県平塚市北金目4-1-1

【数学科同窓会役員】

会長	山田正和	(69年度卒)
副会長	松尾久美子	(70年度卒)
〃	中村昭宏	(76年度卒)
事務局長	原田三行	(70年度卒)
幹事	千葉彰悟	(69年度卒)
〃	沢野重春	(70年度卒)
〃	坂井和也	(80年度卒)
〃	岡安英文	(80年度卒)
〃	山本義郎	(91年度卒)
代議員	各年代2名	
会計	泉水博	(00年度卒)
監査	手塚政夫	(70年度卒)

【編集後記】

会報の編集に携わり10年が経過しました。お陰さまで今回、第10号の発行が無事にできますことは、急な依頼にも関わらず快く引き受けていただき原稿をお寄せいただいた、多くの方々に感謝申し上げます。

(み)



数学科研究室のある18号館